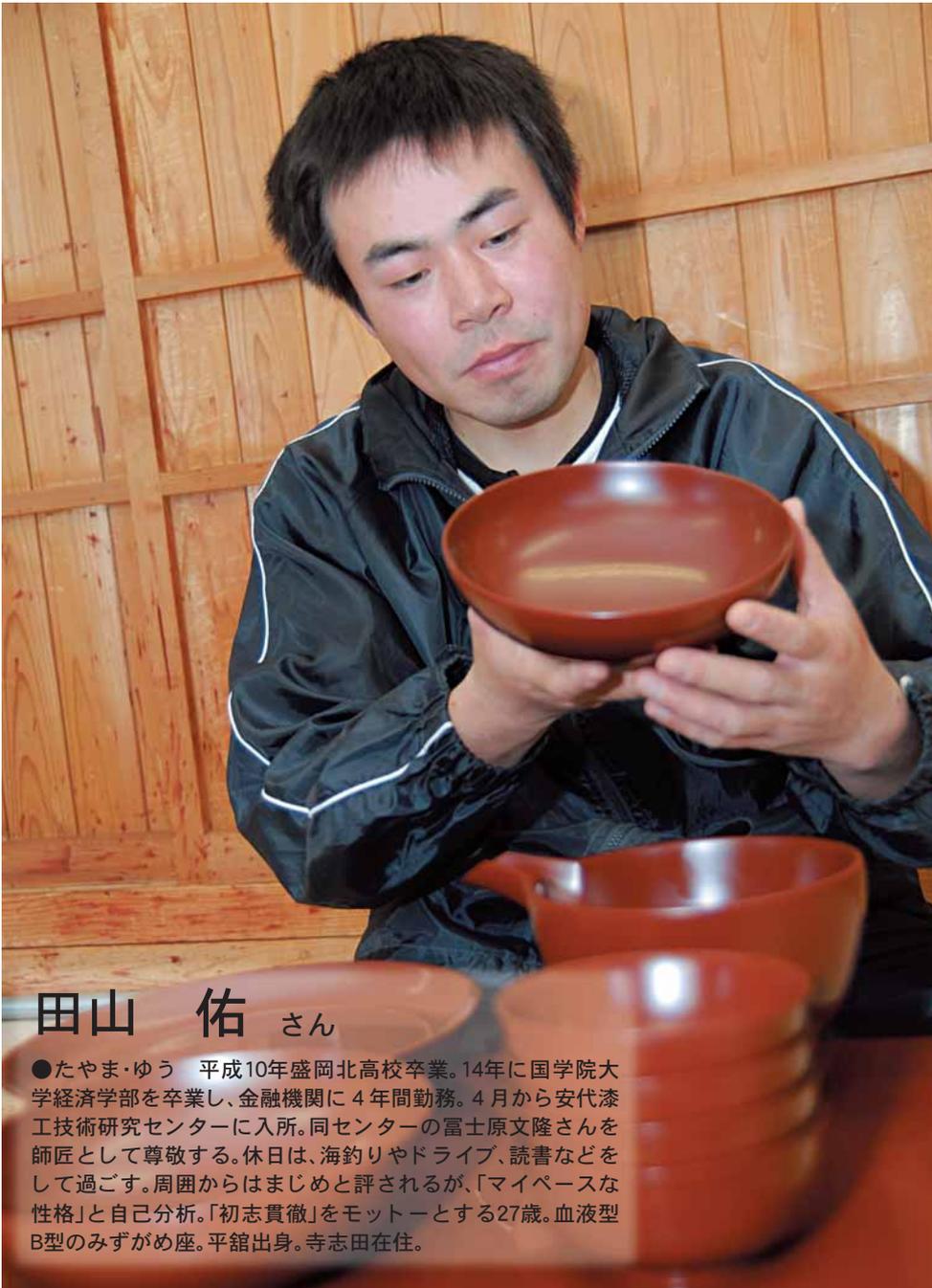


ズームアップ

人

一人前の職人になって、安比塗の良さを全国に発信するメンバーの一員になるのが夢です



田山 佑 さん

●たやま・ゆう 平成10年盛岡北高校卒業。14年に国学院大学経済学部を卒業し、金融機関に4年間勤務。4月から安代漆工技術研究センターに入所。同センターの富士原文隆さんを師匠として尊敬する。休日は、海釣りやドライブ、読書などをして過ごす。周囲からはまじめと評されるが、「マイペースな性格」と自己分析。「初志貫徹」をモットーとする27歳。血液型B型のみずがめ座。平舘出身。寺志田在住。



旅

行が好きで、各地で見聞を広めることが趣味の田山さん。旅先で手作りの織物や工芸品に触れ、中でも地域によってさまざまな違いがある漆器に強い興味を覚えた。昨年4月に岩手日報新聞

紙上で安代漆工技術研究センターに研修生が入所したという記事を見て、ものづくりの魂に火がついた。「もともと、子どものころから、ものを作るということが大好きだったんです」と、懐かしそうに語る。小学生のころから、自動車のプラモデルや、廃材の木切れを拾ってき型を削って遊んでいたという。ここにもものづくりの魂のルーツがある。

器職人の養成機関がある中で、このセンターを選んだ。「学ばなら、日本一の漆の産地と直結した、八幡平市が最高です」と力強く語る。出身地の旧西根町と合併したことに加えて、家族が応援してくれたことが何より後押しとなった。漆器職人の道を歩む決意を固め、それまで勤めていた金融機関を退職。そこには一点の迷いもない。入所して、初めて扱う漆。1週間でも手も顔もかぶれて腫れ上がったが「先輩たちも経験したことです」と、笑顔を見せる。入所してまだ2カ月だが、漆と漆文化の奥深さに触れる毎日に喜びを感じる。「漆の文化があるのは日本だけ。日本の誇る文化に携われることが幸せです」と目を輝かせる。研修期間の2年間は短い。先生や先輩から、安比塗の技術を学べるだけでなく、学ぼうと意欲を燃やしながら、その目は遠く将来も展望する。研修課程を修了した後も市内に住み、長く使ってもらえる安比塗を作る職人になりたいのだという。「安比塗の魅力を全国に伝えることが夢です」。そう語る田山さんは、一人前の職人を目指し、今日も安比塗の技法を学ぶ。